処 方 箋

カルテ番号 条行 年 月 病 名 ・薬剤名 (一般名): アスピリン ・英名: aspirin ・分類: 解熱消炎鎮痛剤 ・分類(解効): 川崎病治療薬 ・用法: 経口(錠、散) ・表示区分: なし 「禁忌・慎重投与」 ・禁忌: 過敏症、消化性潰瘍のある患者、アスピリン喘息の既往、出産予定 12 週以内の妊婦、重篤な血液異常、重篤な肝機能・腎機能障害まだは心機能不全のある患者、出血傾向のある患者・慎重投与: 抗凝固剤等 [作用] プロスタグランジン生合成の律速酵素であるシクロオキシゲナーゼ (COX) を阻害し、プロスタグランジン生合成の律速酵素であるシクロオキシゲナーゼ (COX) を阻害し、プロスタグランジンの産生を抑制することにより、抗炎症作用、解熱作用、鎮棄作用をあらわす。 「適応」関節リウマチ、リウマチ熱、変形性関節症、強直性育稚炎、関節周囲炎、結合織炎、術後疼痛、歯痛、症候性神経痛、関節痛、腰痛症、筋肉痛、捻挫痛、打撲痛、痛風による痛み、頭痛、月経痛、急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)の解熱・鎮痛、川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む) 「副作用」消化性潰瘍、ショック、アナフィラキシー、出血傾向、TEN、SJS、喘息発作、肝・能障害など ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・										
・薬剤名(一般名): アスピリン ・英名: aspirin ・分類: 解熱消炎鏡痛剤 ・分類・解熱消炎鏡痛剤 ・分類・解熱消炎鏡痛剤 ・分類・解熱消炎鏡痛剤 ・分類・原熱消炎鏡痛剤 ・分類・原素・過敏症、消化性潰瘍のある患者、アスピリン喘息の既往、出産予定 12 週以内の妊婦、重篤な血液異常、重篤な肝機能・腎機能障害または心機能不全のある患者、出血傾向のある患者 ・慎重投与: 抗凝固剤等 [作用] プロスタグランジン生合成の律速酵素であるシクロオキシゲナーゼ (COX) を阻害し、プロスタグランジンを合成の律速酵素であるシクロオキシゲナーゼ (COX) を阻害し、プロスタグランジンの産生を抑制することにより、抗炎症作用、解熱作用、鏡線作用をあらわす。 「適応」 関節リウマチ、リウマチ熱、変形性関節症、強直性育椎炎、関節周囲炎、結合織炎、術後疼痛、歯痛、症候性神経痛、関節痛、腰痛症、筋肉痛、捻挫痛、打撲痛、痛風による痛み、頭痛、月経痛、急性上気道炎 (急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)の解熱・鎮痛、川崎病 (川崎病による心血管後遺症を含む) [副作用] 消化性潰瘍、ショック、アナフィラキシー、出血傾向、TEN、SJS、喘息発作、肝・能障害など 豆知識(国試対策事項や使用の注意等) ●構成型 COX (COX-1)と誘導型 COX (COX-2)に対する選択性はない。 ●他の酸性非ステロイド性抗炎症薬とは異なり、非可逆的に COX 活性を阻害し特にCOX-1 に対する選択性が高い。 ●ライ症候群と関連性があるため、15 歳未満の水痘・インフルエンザには原則投与	カルテ番号					発行		年	月	日
 ・薬剤名(一般名):アスピリン ・英名:aspirin ・分類:解熱消炎鎮痛剤 ・分類:解熱消炎鎮痛剤 ・分類:解熱消炎鎮痛剤 ・分類:解熱消炎鎮痛剤 ・分類:解熱消炎鎮痛剤 ・分類:解熱消炎鎮痛剤 ・分類:解力: 本し [禁忌・慎重投与] ・禁忌:過敏症、消化性潰瘍のある患者、アスピリン喘息の既往、出産予定 12 週以内の妊婦、重篤な血液異常、重篤な肝機能・腎機能障害または心機能不全のある患者、出血傾向のある患者 ・慎重投与:抗凝固剤等 [作用] プロスタグランジン生合成の律速酵素であるシクロオキシグナーゼ(COX)を阻害し、プロスタグランジンの産生を抑制することにより、抗炎症作用、解熱作用、鏡郭作用をあらわす。 [適応] 関節リウマチ、リウマチ熱、変形性関節症、強直性育椎炎、関節周囲炎、結合緯炎、術後疼痛、歯痛、症候性神経痛、関節痛、腰痛症、筋肉痛、捻挫痛、打撲痛、痛風による痛み、頭痛、月経痛、急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)の解熱・鎮痛、川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む) [副作用] 消化性潰瘍、ショック、アナフィラキシー、出血傾向、TEN、SJS、喘息発作、肝能障害など 豆知識(国試対策事項や使用の注意等) ●構成型 COX (COX-1)と誘導型 COX (COX-2)に対する選択性はない。 ●他の酸性非ステロイド性抗炎症薬とは異なり、非可逆的に COX 活性を阻害し特にCOX-1 に対する選択性が高い。 ●ライ症候群と関連性があるため、15 歳未満の水痘・インフルエンザには原則投与 										
・英名: aspirin ・分類: 解熟消炎鎮痛剤 ・分類(略称): 川崎病治療薬 ・用法: 経口(錠、散) ・表示区分: なし 「禁忌・慎重投与] ・禁忌: 過敏症、消化性潰瘍のある患者、アスピリン喘息の既往、出産予定 12 週以内の妊婦、重篤な血液異常、重篤な肝機能・腎機能障害または心機能不全のある患者、出血傾向のある患者 ・慎重投与: 抗凝固剤等 [作用] プロスタグランジン生合成の律速酵素であるシクロオキシゲナーゼ(COX)を阻害し、プロスタグランシンの産生を抑制することにより、抗炎症作用、解熱作用、鏡痒作用をあらわす。 [適応] 関節リウマチ、リウマチ熱、変形性関節症、強直性脊椎炎、関節周囲炎、結合織炎、術後疼痛、歯痛、症候性神経痛、関節痛、腰痛症、筋肉痛、捻挫痛、打撲痛、痛風による痛み、頭痛、月経痛、急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)の解熱・鎮痛、川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む) [副作用] 消化性潰瘍、ショック、アナフィラキシー、出血傾向、TEN、SJS、喘息発作、肝能障害など 豆知識(国試対策事項や使用の注意等) ●構成型 COX (COX-1) と誘導型 COX (COX-2) に対する選択性はない。 ●他の酸性非ステロイド性抗炎症薬とは異なり、非可逆的に COX 活性を阻害し特にCOX-1 に対する選択性が高い。 ● ライ症候群と関連性があるため、15 歳未満の水痘・インフルエンザには原則投与	名		_							
COX-1 に対する選択性が高い。 ●ライ症候群と関連性があるため、15 歳未満の水痘・インフルエンザには原則投与	処	・・・・・ 禁・内者・ 「プレ作」 「関術よの」 『消能 豆英分分用表 忌禁の、慎 用口、用 「阿節後る解」 化障 知名類類法示 ・忌妊出重 リスプを 「り疼痛熱 用消洗して、	に、略:区(慎:帚面分) ダコあり ウネみ・ 〕貴は (aspirin 外回: 世級重向: ラタわ チ歯頭痛 、 試い ・ 対別 ・ 対対 ・ 対対 ・ ・ 対域 ・ ・ ・ ・ がす ・ ・ 、 病痛、 ・ ・ 対域 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 、 病痛、 ・ ・ 対域 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	剤療()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()(- Ca - P - P - P - P - P - P - P - P - P -	・ るこ 、 腰急管 、・ 数痛性後 出	障害 オキ 大は 本 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	・機能 ・ゼス ・世末 ・周編 ・世末 ・日本 ・世末 ・世末 ・世末 ・世末 ・日本 ・世末 ・世末 ・世末 ・世末 ・日本 ・日本 ・日本 ・日本 ・日本 ・日本 ・日本 ・日本	をの	書痛、につ
しない。		COX-1	に対する選択 症候群と関連性	性が高い。						

●川崎病については急性期慢性期で用量が大きく異なるため注意する。